

## JSPS Information

- ◇日本惑星科学会第104回運営委員会議事録
- ◇日本惑星科学会第40回総会議事録
- ◇日本惑星科学会賛助会員名簿
- ◇日本惑星科学会主催・共催・協賛・後援の研究会情報

### ◇日本惑星科学会第104回運営委員会議事録

日 時：2013年11月20日(水) 19:10-21:50

場 所：石垣市民会館楽屋3と4

運営委員：

(出席) 田近英一, 渡邊誠一郎, 倉本圭, 中村昭子, 荒川政彦, 生駒大洋, 渡部潤一, 並木則行, 永原裕子, 千秋博紀, はしもとじょーじ, 平田成, 荒井朋子, 小久保英一郎, 佐々木晶, 城野信一, 小林直樹,  
(欠席委任状有) 井田茂, 杉田精司, 橘省吾, 中本泰史, 林祥介, 藤本正樹,

オブザーバー：

木村勇氣(2014年LOC総務)

奈良岡浩(2014年学会賞選考委員会委員)

議題・報告事項：

#### 1. 会計第12期上期中間報告

荒井財務専門委員長より収入支出も順調に進んでいるとの報告があった。

#### 2. 会計第12期下期予算案

荒井財務専門委員長より収入は例年通りとの報告がなされた。特別会計は寄付金に依存している。支出について、EPS分担金の増額および支払い期日前倒して2年分支払うこと、来る10年などの研究会等補助、遊星人のカラーページなどの特記事項の説明がなされた。

80万円のマイナスについて議論がなされ、秋季講演会は収入支出が釣り合うように参加費等の設定を行うこと、遊星人はカラーページと原稿おこしあわせて20万円とすることが決められた。来る10年の要望は取り下げ、恒常的に赤字なのは問題なので対策を考える。

#### 3. 自然災害に伴う会費免除措置等について

荒井財務専門委員長より説明がなされ、適用範囲を、災害救助法の適用とそれに準ずる場合と変更することとなった。

#### 4. 入退会について

平田総務専門委員長より例年通りの定常との報告がなされた。

#### 5. その他総務からの案件(議長・書記等)

平田総務専門委員長より総会の議長として阿部新助会員、書記として黒澤耕介会員が提案され、運営委員会によって承認された。

## 6. 遊星人の発行状況報告

はしもと編集専門委員長より、つつがなく発行されているとの報告があった。

## 7. 研究会・部会の消息確認について

千秋情報化専門委員会委員長より、学会サーバー上に名前は残っているが活動の無くなっている会があるので、年一度くらいアンケートして実態を把握し、活動が終わっている会はリンクから外すことが提案され、運営委員会に了承された。

## 8. 日本地球惑星科学連合の報告

永原日本地球惑星科学連合連携専門委員会委員長より、オープンアクセス化や投稿料など、連合の英語ジャーナルの状況について報告された。また佐々木欧文誌専門委員会委員長よりEPSについて説明が加えられた。EPSはなるべく盛り立てていくことが重要。

来年の連合大会は横浜パシフィコにて4月28日-5月2日の予定。

連合の代議員選挙が行われたことが報告された。今後、連合連携委員会のあり方・位置付けについて考え直す必要がある。連合の変化に合わせて学会のほうも対応をしていく。

## 9. 来る10年第三段階について

並木将来惑星探査検討グループ長より、来る10年のまとめの方針について説明がなされた。ただ一つのミッションを選ぶことはしないが、現時点でのミッションコンセプトの評価を行う。評価項目・基準について意見を聴く会を開催、コミュニティからの評価を受け付ける。秋季講演会で説明をする。

## 10. 2013年秋季講演会報告等

渡部2013年秋季講演会組織委員会委員長より報告がなされた。順調に行われており、例年以上の多くの参加者、発表者数があった。主催を石垣市にすることを追認。切り替え器とプロジェクターの相性の関係か、Macを挟むと切り替えが動かず、差し替えロスで時間が押してしまっている。

## 11. 2014年秋季講演会実施案および東北大学大学院理学研究科との共催について

木村2014年秋季講演会組織委員会総務より説明がなされた。東北大学片平さくらホールにて9月23日-26日に開催。一般講演会を23日に開催する。

1階ラウンジをポスター会場とし、2階会議室196席で口頭発表および総会を行う。中村智樹委員長、東工大サポートの体制で実施。会場光熱費13万円程度、印刷費10万円程度等の予算説明がなされた。東北大学の理学研究科との共催を承認。

## 12. 最優秀発表賞受賞者の決定

奈良岡学会賞選考委員会委員より2013年度学会賞選考委員会は片岡章雅会員を受賞者として推薦することが報告され、異議なく了承された。

## 13. 小型惑星探査の検討経過と惑星探査コンソーシアムの検討

荒川将来計画専門委員会委員長より、イプシロンロケットをめぐる状況および継続的惑星探査実現のためのアクションプランに向けて説明がなされ、議論が行われた。

1. 宇宙研の現ワーキンググループのミッションと来る10年の候補ミッションを戦略的に再構成する。
2. 工学との連携による惑星探査計画の立案と実施のための枠組みを構築する。宇宙研の探査ロードマップに太陽系探査科学分野は、最初の約10年を機動性の高い小型ミッションによる工学課題克服・技術獲得と先鋭化したミッション目的を立て、10年後以降の大型ミッションによる本格探査に備える。来る10年のメンバーを含めた戦略ワーキンググループを新たに立ち上げる。工学の方も交えて議論し、3号機への提案、4号機以降につながるアイデアを募る。系外惑星などの天文分野や次の世代を取り込み、小型でも国際協力を考える必要がある。
3. 惑星科学コンソーシアムを中心とした継続的な惑星探査を可能にするための環境を構築する。惑星科学研究コンソーシアムミニワークショップを開催。コンソーシアムの具体化に向けて参加予定機関を中心に

継続的に議論を行っている。宇宙研以外でも中心となる拠点組織を決める必要がある。

#### 14. その他

渡部運営委員より、Asteroids, Comets, Meteors 2012(日本惑星科学会後援)が日本政府観光局「国際会議誘致・開催貢献賞」を受賞したことが報告された。

## ◇日本惑星科学会第40回総会議事録

日 時：11月21日(木) 16:30-17:30

場 所：石垣市民会館大ホール

〒907-0013 沖縄県石垣市浜崎町1丁目1番2

正会員：641名

定足数：64名

参加人数：101名(開会時)、109名(議事3.1採択時)、110名(議事3.2採択時)

委任状：105通(議長：102、佐々木晶会員：1、生駒大洋会員：1、田近会員：1)

### 1. 開会宣言

平田総務専門委員長が開会を宣言。

### 2. 議長団選出

運営委員会からの推薦で議長に阿部新助会員、書記に黒澤耕介会員が選出された。

### 3. 議 事

#### 3.1. 第12期上期(2013年度)中間報告

##### ・会計報告

荒井財務専門委員長より会計の中間報告が行われた。収入・支出共に順調で、特記事項なし。

また、同じく荒井財務専門委員長より、議事3.2に関わる下半期予算案についても説明が行なわれた。運営委員会での議論の結果、事前準備された配布資料から変更があったため、その内容について説明された(学会webに掲示の会計資料は変更反映済み)。

収入:配布資料の予算案から、秋季講演会の収入を上方修正して昨年度と同等額とした。

前期繰越収支差額の算出方法を説明した(資料備考を参照のこと)。

支出：遊星人関連費用を10万円下方修正した(それでも昨年度よりは多い)。

春山会員より、2012年度決算のうち、講演会事業費額の中の諸謝金額の明細について2013年度、2014年度予算額と比較して特に多いのではないかと質問があった(ただし2012年度決算は第39回総会で承認済み)。荒井財務専門委員長は、講演会事業費は各年度LOCの提出した予算計画をはめ込んでいると説明。

また、同じく春山会員より、秋季講演会での赤字/黒字発生時の取り扱いについての指針を明確にしてほしいとのコメントがあった。

##### ・各種専門委員会報告

##### ・田近会長による初言：イプシロンロケットの打ち上げ能力

「来る10年」で検討しているフラッグシップミッションを行うことはできない情勢となった。10年以内には難しいが、旧M-Vクラスの打ち上げの機会に備えて、また、イプシロンによる小型ミッションの可能性について将来計画委員会で検討すべし、と指示した。

##### ・荒川将来計画委員長による状況報告

- ・会長の指示を受けて検討を開始
  - ・宇宙研の現WGのミッションと来る10年の候補ミッションを戦略的に再構成。担当は並木会員。
    - －イプシロンロケットをどう生かすかがキーとなる
  - ・工学との連携による惑星探査の立案と実施の枠組み構築も重要。担当は荒川会員
  - ・太陽系探査科学の今後の見通し
    - －最初の10年:機動性の高い小型ミッション(イプシロンロケット)
    - －10年後以降:大型ミッション
  - ・12-1月にイプシロンロケットを用いた小型惑星探査に関するシンポジウムを実施する予定
    - －3号機への提案, 4号機以降に繋がるアイデアを募る
  - ・惑星科学コンソーシアムを中心とした継続的な惑星探査を可能にするための環境構築を行う。担当は倉本会員
- ・採 択
- 第12期上期(2013年度)中間報告の採択が行われ、賛成:213(うち出席者108)、反対:0、保留:1により採択された。

### 3.2 第12期下期(2014年度)予算案

荒井財務委員長より第12期上期(2013年度)会計の中間報告とともに、第12期下期(2014年度)予算案についても説明された。

・採 択

第12期下期(2014年度)予算案の採択が行われ、賛成:214(うち出席者109)、反対:0、保留:1により採択された。

## 4. 報告事項

### 4.1 自然災害に伴う会費免除措置について

荒井財務専門委員長より会費免除措置制度の説明と、適用を希望する際の申請方法について説明が行われた。

### 4.2 学会賞授賞式:2012年度最優秀研究者賞および2013年度最優秀発表賞

#### 4.2.1 審査結果発表

最優秀発表賞には5名が応募し、片岡章雅会員が受賞した。

#### 4.2.2 表彰状贈呈

田近会長より、表彰状と副賞が片岡章雅会員および成田憲保会員(2012年度最優秀研究者賞)に贈呈された。

#### 4.2.3 審査講評

林学会賞選考委員長の代理で奈良岡選考委員より、最優秀発表賞の選考の経緯と講評の説明があった。

#### 4.2.4 受賞者挨拶

片岡章雅会員より最優秀発表賞の受賞者挨拶が行われた。

### 4.3 2013年秋季講演会の報告

渡部2013年秋季講演会組織委員長より、今年の学会報告が行なわれた。200名を超える参加者で、惑星科学会の秋季講演会史上最高参加者数となった。講演数は194。

### 4.4 2014年秋季講演会の案内

木村2014年秋季講演会組織委員会総務より、来年の惑星科学会秋季講演会の案内が行なわれた。2014年はLOC東北大学(東工大関係者によるサポート)により、9/23-9/26の日程で、東北大学片平さくらホールで秋季講演会を開催する。

### 4.5 来る10年第三段階について

並木将来作成探査検討グループ長から「来る10年」検討の報告が行なわれた。

- ・ 検討は第三段階まで到ったが、一方で惑星科学探査をとりまく環境を鑑みると当初の目標は実現し得ない見通しである
- ・ 第三段階での検討の結論を出して、そろそろ一区切りつける時期と認識
- ・ 1つのミッションを選定する代わりに、各ミッションに「成績表」をつけ、惑星科学会としてのフラッグミッションを明示することとした
- ・ 最終報告は来年度の月惑星シンポジウムの時期になる見込み

#### 4.6 その他

佐々木欧文誌専門委員長から、EPSとJpGU新ジャーナル(PEPS)についての報告が行なわれた。両誌とも5年間の科研費を獲得。当面は並立し、両方ともopen access誌となる。学会員は格安の投稿料。

#### 5. 議長団解任

#### 6. 閉会宣言

### ◇日本惑星科学会賛助会員名簿

2014年3月25日までに、賛助会員として本学会にご協力下さった団体は以下の通りです。社名等を掲載し、敬意と感謝の意を表します。(五十音順)

アメテック株式会社カメカ事業部  
株式会社五藤光学研究所  
有限会社テラパブ  
株式会社ニュートンプレス

### ◇日本惑星科学会主催・共催・協賛・後援の研究会情報

(a)場所、(b)主催者、(c)ウェブページ/連絡先など。

転記ミス、原稿作成後に変更等があるかもしれません。各自でご確認ください。

#### 2014/04

#### 4/28-5/2 日本地球惑星科学連合2014年大会

- (a)パシフィコ横浜, 神奈川県横浜市
- (b)公益社団法人日本地球惑星科学連合(日本惑星科学会共催)
- (c)<http://www.jpгу.org/meeting/>

---

**2014/06**

---

**6/24-6/28 第16回流れの可視化に関する国際会議(ISFV16)**

(a) 沖縄コンベンションセンター, 神奈川県横浜市

(b) 可視化情報学会(日本惑星科学会共催)

(c) <http://www.isfv.org>